



ワンコイン
ブック

真宗

しん
しゅう

四
衢
亮



東本願寺出版

真^{しん}

宗^{しゅう}

四^{よつ}

衢^{つじ}

亮^{あきら}

真宗という名

「真宗」しんしゅう という言葉をインターネットで検索すると、浄土真宗の成り立ちや東西本願寺に関するもの、宗祖しゅうそである親鸞しんらん聖人しょうにんに関する項目が多く出てきます。全体としては宗派名として「真宗」という言葉が使われていることが多いようです。もちろん現在では、真宗・浄土真宗という宗派の名称で活動し多くの人々に親しまれ、それぞれの本山を中心にして全国各地に別院や寺院が存在

し、多くのご門徒や僧侶がいます。現代において「真宗」と言えばそうしたことがイメージされるでしょう。

しかし、親鸞聖人がおられた当時には、現在の真宗という宗派はおろか本願寺というお寺もありません。ですから、親鸞聖人は、組織としての宗派やお寺を意識して「真宗」という言葉を使っておられないのです。

親鸞聖人は、「真宗」について、「遇あう」「帰きする」「さ
とる」「念ねん仏ぶつ成つじ仏しようこれ真宗」「一いち実じつ田えん満まんの真教しんきょう、真宗こ
れなり」などと表現されていますから、自ら出遇でわれ、

帰依きえされた「教え」を真宗と言われているようです。

「真」と「宗」

「真宗」という言葉は、「真」と「宗」に分かれます。「真」は、「真実」という意味です。親鸞聖人は「まこと」という言葉を使われ、大切にされています。まことは、「マ（真）コト（事）」という言葉で、マ（真）は、「揃っている、完全である、本物である、すぐれている」